



▲傷病者搬入の様子

クローズアップ 天王寺

# 救える命を救う 最前線は一人ひとり

知ってほしい「予防救急」

「予防救急」という言葉を耳にしたことはありますか。これは、少しの注意と心がけにより家庭内での事故や病気を防ぐことができるということ。

「家庭での転倒や転落、入浴中の事故、インフルエンザや風邪。日常の心がけで防げる事故や病気が多くあります」

救急救命士でもある天王寺消防署の山田武志消防司令補は話します。

「今の季節なら熱中症。こまめな水分と塩分の補給はもちろん、暑さを感じにくい高齢の方は温度計を見ることを習慣づけて、30度を超えたら冷房するなど対策をとってほしいですね」

一人でも多くの命を救うために

そんな呼びかけの背景にあるのが、救急出動件数の増加です。平成27年には大阪市内で約22万件的救急出動があり、その内約6割が軽症の患者でした。「現在60救急隊が市内の消防署出張所に配置されていますが、そのほとんどが出場中のこともあります。一刻を争う



▲山田武志消防司令補・救急救命士



▲救急救命士は医師の指示のもと、一部医療行為を行います。

ときに救急隊が現場に急行できない事態が危惧される中、救える命を救うため一人ひとりが予防救急に努めてほしいのです。もし、突然のけがや病気で救急車を呼んだらいいのか迷ったら、「救急安心センターおおさか」で24時間、相談を受け付けています。もちろん家族や目の前にいる人が倒れたら、迷わず119番通報です」

勇気を出して、まず行動を

救急車が着くまでの間に行う救命処置が有るか無いかは、救命に大きく影響します。「救急現場の最前線は救急隊や医師だと思われがちですが、本当の最前線は救急現場に居合わせた方いわゆるバイスタンダー( bystander )です。私の経験では、一時的に心停止になっても、回復して社会復帰した人は、ほぼバイスタンダーに何らかの救命処置をされています」

救命処置とは自らの安全の確保、心停止の早期の認識、胸骨圧迫と人工呼吸による心肺蘇生、AEDの使用などの行動。



▲火災防御訓練の様子

「心停止の疑いがあれば、まず胸骨圧迫を試みてほしいんです。意識があれば相当痛いの、やってみて痛いという反応がなければ、続けてほしい。躊躇せず、勇気を出して、歩踏みこむことで救える命があります。救命講習会にもぜひ参加して、心肺蘇生法を学んでください」

今、大切なのは「防災力」

山田消防司令補は熊本地震の被災地へ緊急消防援助隊の2次派遣隊として



▲消火活動時は、防火服に身を包みます。



▲吉野元晴消防司令

住宅用火災警報器の設置を

消防署員は、火災などの災害から人命、財産を守るため24時間体制で活動しています。たとえば、消火栓などの保守点検、建物の維持管理が適正か立入検査したり、新しい建物を把握するための視察、そして、何より消火・救助技術を高めるための日常の訓練は必要不可欠で、その成果をより高めるため、市内25消防署対抗による技術練成会も開催されています。また、一般住宅への防火訪問などを

**天王寺消防署での普通救命講習 I**

日時／・8月3日(水) 18:00～21:00  
・10月29日(土) 9:30～12:30

申込方法／希望講習日の4日前までに天王寺消防署に申込

大阪市消防局 天王寺消防署  
上本町8-5-10 ☎6771-0119

元町出張所  
四天王寺1-11-68 ☎6772-0119

救急安心センターおおさか  
☎#7119 または 6582-7119



「起るかもしれない」と、日頃から危機意識を持ち備えることは大切です。たとえば、オール電化の家は火災と無縁だと思われている方もいますが、電気配線や製品などを原因とする火災も起こり得ます。ガスコンロに鍋をかけたまま忘れてしまおうというような、あわや火災という事案も発生しています。危機意識を忘れず、十分気をつけてください」

予防救急、防火、防災、いずれも最前線は一人ひとりの心がけ。できることから少しずつ、行動してみましよう。

一人ひとりが危機意識を



▲救助のエキスパート、レスキュー隊員。

目次

- クローズアップ天王寺 天王寺消防署 ..... 2
- お知らせ ..... 3
- 保健衛生 ..... 4
- 子育て情報 ..... 5
- イベント情報 ..... 6
- わがまち天王寺 ..... 8
- おおさか掲示板 ..... 9
- 子育て情報博覧会 / てんしば・夏あそび2016 / 区長通信 ..... 12
- 別冊「防災特集」